

月周回衛星「かぐや」の広報・普及啓蒙活動について

KAGUYA(SELENE) promotion and Public Outreach Activity

祖父江 真一 [1]; 山本 彩 [2]

Shinichi Sobue[1]; Aya Yamamoto[2]

[1] 宇宙機構; [2] レステック

[1] JAXA; [2] RESTEC

宇宙航空研究開発機構（JAXA）においては、2007年9月14日にH-A 13号機によって、月周回衛星「かぐや」（SELENE：SELenological and ENgineering Explorer）を打ち上げ、10月4日に月周回軌道に投入し、初期機能確認を実施したのち、12月21日から定常運用を行っている。「かぐや」は、21世紀の世界的な月探査時代の幕明けを担う月探査機であり、主衛星と2機の子衛星（リレー衛星「おきな」とVRAD衛星「おうな」）から構成されている。この「かぐや」から得られる観測データを、JAXA 相模原キャンパスのSOAC(SELENE ミッション運用・解析センター)においてアーカイブし、機器チームによるデータの校正・検証および解析研究に供せられている。その一方で、ハイビジョンカメラによる映像がきっかけとなり、「かぐや」による科学観測データに関しても国民の関心が高まっている。特に学校教育や科学館等における「かぐや」データの利用が期待されている。

本稿では、「かぐや」の現状とともに「かぐや」に関する広報・普及啓蒙活動の内容および今後の計画について報告するものである。